

1. 職名・氏名 准教授・木下和久2. 学位 学位 博士、専門分野 経済学、授与機関 福井県立大学、授与年月 2010年3月

## 3. 教育活動

## (1)講義・演習・実験・実習

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
管理会計論(2単位)3・4年生

## ②内容・ねらい（自由記述）

会計情報を企業の内部で利用する管理会計について講義を行い、戦略的な意思決定や業績評価など、企業活動において会計情報をいかに活用するかについて検討し理解を深める。

管理会計の基礎から社会や企業の変化に伴う管理会計の発展を学び、企業活動を管理会計の視点から理解できるようになることを目指す。また、実務事例を通じて、管理会計への理解を深め、自ら企業の調査・分析を行い、管理会計的思考を実践・展開できるようになることを目指す。

## ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

講義は座学であり、理論を中心とすることになる。管理会計は企業内部における会計情報を活用した管理がテーマであるため、学生にとって未知の世界であるため、話題そのものに馴染みがなく理解には困難を伴う。そこで、理論的な解説だけではなく、より身近な問題として捉えることができるように、また、自分の生活のなかで活用できるような仕掛けを用意した。

まず、受講する学生が、実務での実践について少しでも理解できるように、講義の中で様々な実務事例を紹介し、管理会計の視点から検討・分析を行った。事例の中で、様々な企業を知るだけに留まらず、その優れた点や課題、将来への展望などの解説を通じて、学生が視野をより広めることができることを目標としている。この事例解説の中では、学生自分が気づいた問題をより深く理解できる能力を獲得できるように意図した。実務事例は、学生が興味を持てる内容であること、なお講義内容をより理解できる物を選んだ。実務事例を説明に利用することで、抽象的な理論と具体的な実務のイメージとを結びつけることができるため、学習内容に対する心理的な障壁を取り除き、容易かつより深く理解することを可能とした。

さらに、受講生には講義外での課題を定期的に課した。この課題は、講義内容を踏まえたうえで、かつ実生活の中で、講義内容を実践することを求めるものである。この中では、学生が実際にPDCAを回すことを求めた。目標・計画をたて、実行し、その結果を分析し、是正措置を実行する。この作業を何回か繰り返した上で、分析し報告することになる。学習内容の進捗にあわせて課題を設定することで、学習が進むにつれて、実生活の中で管理会計の理論を実践するような仕掛けを用意している。これにより、講義内容をより身近な問題としてとらえるようにするとともに、実生活そのもので学問を展開することで、学問への意欲を高めることを目指している。この課題の内容は、段階的により高度の学習内容となるように設計している。最初の課題は比較的容易にすることで、会計への抵抗感をやわらげ、学習が進むにつれて、より会計理論に即した分析・検討が可能になる内容とすることで、課題を実践することで自然と学習を深めることを目指している。

また、講義の最後には、毎回アクションペーパーを配布・回収している。このアクションペーパーでは、当日の講義についてまとめることを求めている。これは、講義を受ける時の受講へのインセンティブとなると同時に、まとめる作業自体による、学習内容の理解と定着を目指している。このアクションペーパーでは、講義内容に関する疑問点や、板書や声の大きさなど講義の仕方への要望を含む自由な記述についても書くことができる。記載さ

れた疑問や要望は、次の講義でできるかぎり紹介することで、積極的に質問できるような仕掛けとなることを意図している。講義の内容に関する疑問であれば前回の講義内容に追加で解説を行ったり、追加資料を作成・配布したり、講義を補完することができた。講義の仕方に関する要望であれば、可能なものは次回から対応し、より良い講義となるようフィードバックを心掛けた。例えば、大教室で文字が見にくいというような要望には、できるかぎり文字サイズを大きくしたり、講義中に学生に確認をしたり、見やすい資料を用意するなど対応を行った。講義内容とは関係がない質問も中にはあるが、意識して紹介することで、学生が質問しやすくなるように心掛けることで、学生の要望を講義に反映させる効果的なツールとなっている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
原価計算論 I (2 単位)、2・3・4 年生

②内容・ねらい（自由記述）

製品の原価を中心に原価管理について多面的な検討を行う。製品原価がいくらかを把握するための計算方法について学習し、なぜその計算をするのか理論的に解説する。加えて実務で原価が活用されている事例を紹介し分析する。

原価の計算方法に関する基礎的な内容の理解と計算能力を身に付けることを目指し、原価計算の目的や効果など、理論的側面から原価計算の理解を深める。実務において実践されている原価計算や原価管理事例について理解し、企業の行動を自ら調査・分析できることを目標とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

講義は理論の説明と計算を中心として構成されている。加えて実務事例の紹介と課外学習を組み合わせることで、より効果的な学習となることを狙っている。最初は簡単な会計の話題からはじめるが、簿記が苦手な学生でも理解できるように工夫をするとともに、管理会計的な思考へと誘導し、基本的な計算、発展的な計算へと学習内容を組み立てている。

講義においては、実務での実践についてより身近に感じるとともに理解が深まるよう、講義の中で実務事例の紹介を行った。これにより、実務事例の学習だけでなく、学生が自分で他の事例を理解する能力を獲得できることを目指した。実務事例は、学生が興味を持てる内容であり、なおかつ講義内容と関連する物を選んだ。実務事例を説明に利用することで、抽象的な理論についてより容易に理解を深めることが可能となった。

受講生には講義外での課題を定期的に課した。課題は、講義内容を踏まえたうえで、より多くの企業を積極的に探すことや、企業の有価証券報告書を実際にも読むこと、さらに関連すると思われる経済状況を調査し、それらを総合的に分析し報告することを求めた。これにより、講義内容をより身近な問題としてとらえるようにするとともに、実生活の中で、より多くの企業について意識すること、企業の会計と経済状況とを結び付けられるか考える習慣をつけ、学習意欲を高めることを目指した。

講義では、学習内容をより理解し確認できるように、毎回、計算問題を配布した。これにより講義だけでは理解しにくい内容や理論について理解をすすめることが可能になっている。更に、問題を解く過程で、自分の理解度や修得度合いが十分であるか、不十分であるかを認識できる機会となっている。計算を行うこと自体により小さな達成感を得ることができたため、学習に対する動機付けとなる仕掛けとなっている。

また、講義の最後には、毎回リアクションペーパーを配布・回収している。このリアクションペーパーでは、当日の講義についてまとめることを求めている。これは、講義を受ける時の受講へのインセンティブとなると同時に、まとめる作業自体による、学習内容の理解と定着を目指している。このリアクションペーパーでは、講義内容に関する疑問点や、板書や声の大きさなど講義の仕方への要望を含む自由な記述についても書くことができる。記載された疑問や要望は、次の講義でできるかぎり紹介することで、積極的に質問できるような仕掛けとなることを意図している。講義の内容に関する疑問であれば前回の講義内容に追加で

解説を行ったり、追加資料を作成・配布したり、講義を補完することができた。講義の仕方に関する要望であれば、可能なものは次回から対応し、より良い講義となるようフィードバックを心掛けた。例えば、大教室で文字が見にくいというような要望には、できるかぎり文字サイズを大きくしたり、講義中に学生に確認をしたり、見やすい資料を用意するなど対応を行った。講義内容とは関係がない質問も中にはあるが、意識して紹介することで、学生が質問しやすくなるように心掛けることで、学生の要望を講義に反映させる効果的なツールとなっている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
原価計算論 II(各2単位)、2・3・4年生

②内容・ねらい（自由記述）

製品の原価を中心に原価管理について多面的な検討を行う。製品原価がいくらかを把握するための計算方法について学習し、なぜその計算をするのか理論的に解説する。加えて実務で原価が活用されている事例を紹介し分析する。

原価の計算方法に関する発展的な内容の学習と基礎的な計算能力を修得する。単なる原価計算から原価管理へと発展した視点から学習を進めることで、原価計算・原価管理の目的や効果など、理論的側面から原価計算の理解を深める。実務において実践されている原価計算や原価管理事例について理解し、企業の行動を自ら調査・分析できることを目標とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

講義は理論の説明と計算を中心として構成されている。加えて実務事例の紹介と課外学習を組み合わせることで、より効果的な学習となることを狙っている。最初は簡単な会計の話題からはじめるが、簿記が苦手な学生でも理解できるように工夫をするとともに、管理会計的な思考へと誘導し、基本的な計算、発展的な計算へと学習内容を組み立てている。

講義においては、実務での実践についてより身近に感じるとともに理解が深まるよう、講義の中で実務事例の紹介を行った。これにより、実務事例の学習だけでなく、学生が自分で他の事例を理解する能力を獲得できることを目指した。実務事例は、学生が興味を持てる内容であり、なおかつ講義内容と関連する物を選んだ。実務事例を説明に利用することで、抽象的な理論についてより容易に理解を深めることが可能となった。

受講生には講義外での課題を定期的に課した。課題は、講義内容を踏まえたうえで、かつ実生活の中で、講義内容を実践し、実践した結果を分析・報告することを求めた。この中では、学生が実際にPDCAを回すことを求めた。まず状況を分析し、計画をたてて実行する。その結果を分析した上で、計画を達成できるように是正措置を実行する。この作業を何回か繰り返した上で、分析し報告することを求めた。これにより、講義内容をより身近な問題としてとらえるようにするとともに、実生活そのもので学問を展開することで、学問への意欲を高めることを目指した。また、この課題の実践においては、日常生活の中で長期間にわたりコスト意識を持ちながら目標に向かって実践する必要があると、講義の内容を越えて、学生の主体的な気付きを得ることが目的である。

講義では、学習内容をより理解し確認できるように、毎回、計算問題を配布した。これにより講義だけでは理解しにくい内容や理論について理解をすすめることが可能になっている。更に、問題を解く過程で、自分の理解度や修得度合いが十分であるか、不十分であるかを認識できる機会となっている。計算を行うこと自体により小さな達成感を得ることができ、学習に対する動機付けとなる仕掛けとなっている。

また、講義の最後には、毎回リアクションペーパーを配布・回収している。このリアクションペーパーでは、当日の講義についてまとめることを求めている。これは、講義を受ける時の受講へのインセンティブとなると同時に、まとめる作業自体による、学習内容の理解と定着を目指している。このリアクションペーパーでは、講義内容に関する疑問点や、板書や声の大きさなど講義の仕方への要望を含む自由な記述についても書くことができる。記載された疑問や要望は、次の講義でできるかぎり紹介することで、積極的に質問できるような仕

掛けとなることを意図している。講義の内容に関する疑問であれば前回の講義内容に追加で解説を行ったり、追加資料を作成・配布したり、講義を補完することができた。講義の仕方に関する要望であれば、可能なものは次回から対応し、より良い講義となるようフィードバックを心掛けた。例えば、大教室で文字が見にくいというような要望には、できるかぎり文字サイズを大きくしたり、講義中に学生に確認をしたり、見やすい資料を用意するなど対応を行った。講義内容とは関係がない質問も中にはあるが、意識して紹介することで、学生が質問しやすくなるように心掛けることで、学生の要望を講義に反映させる効果的なツールとなっている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
演習 I 3年生

②内容・ねらい（自由記述）

管理会計学や原価計算論について学習するとともに、企業の競争力の源泉を探るため、管理会計学の見地から企業の調査・分析・検討を行う。知識の獲得とその検証、論理的思考の実践、会計マインドの修得を目指す。企業の調査、分析・検討を通じて、実務や実生活における合理的な判断や意思決定に資する講義となることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

受講生が課題の調査を事前に行い、講義において報告をし、他の学生と議論をすることで、学習し、理解を深めることを目指した。少人数であることを利用し、学生が積極的に発言できるように心がけ、学生が自ら気づき、理解できるように心掛けた。

テキストとして入門から中級の内容のものを利用し、まず学力はもちろん、報告・議論などさまざまな基礎的な能力の獲得を目指した。また、特別な目標を掲げ、達成にむけてチャレンジした。学生の興味や意欲を優先し、学生の意見や要望を積極的に反映できるような場となるように心掛けた。学習では、試行錯誤しながら、調査・学習を進め、主体的に取り組むように促した。本質的な理解ができることも目指し、繰り返し議論し、論理を突き詰めることを求めた。

また、企業見学を二回行った。見学に際しては、事前学習を十全に行うとともに、ゼミ生全員で調査・議論し、企業の分析を行い、質問票を作成した上で見学に臨めるように準備をした。企業見学では、積極的に質問を行い、企業の方と意見交換できるように学生を誘導した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
演習 II 4年生

②内容・ねらい（自由記述）

管理会計学や原価計算論について学習するとともに、企業の競争力の源泉を探るため、管理会計学の見地から企業の調査・分析・検討を行う。知識の獲得とその検証、論理的思考の実践、会計マインドの修得を目指す。企業の調査、分析・検討を通じて、実務や実生活における合理的な判断や意思決定に資する講義となることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

受講生が課題の調査を事前に行い、講義において報告をし、議論をすることで、学習し、理解を深めることを目指した。少人数であることを利用し、学生が積極的に発言できるように心がけ、学生が自ら気づき、理解できるように心掛けた。

前期は学生が就職活動のため、継続する課題を選ぶことが難しいため、各回で簡潔する課題を選び、学生の要望を反映させながらすすめた。その中で上級の内容にも触れながら、全員で課題について議論し意見をまとめることを求めた。前期の途中から後期にかけては、学

生の興味や意欲に応じて、学生ごとに調査論文のテーマを設定し、調査・研究を進めた。指導の中ではより本質的な問題へのアプローチをめざした。また、本質的な理解ができるまで、繰り返し議論し、論理を突き詰めることを求めた。

また、企業見学を二回行った。見学に際しては、事前学習を十全に行うとともに、3年のゼミ生と一緒に調査・議論し、企業の分析を行い、質問票を作成した上で見学に臨めるように準備をした。企業見学では、積極的に質問を行い、企業の方と意見交換できるように学生を誘導した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
基礎ゼミ 2年生

②内容・ねらい（自由記述）

大学における学習や調査・報告、社会において求められるスキルについて学ぶと同時に、福井の企業や経営・経済に関する身近な話題をテーマに実践し理解を深める。

大学での学習、大学3・4年生、社会人において必要となるスキルの習得をめざし、体験学習を実施する。課題として地域の企業、経営・経済に関連する話題を学生自ら選び、調査・報告・議論を行うことで、ビジネスの利益構造や、地域や世界への理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

講義を大きく学習と実践に分け、学生の意欲を引き出すように、とにかく「やってみる」ことを大切にすすめた。講義の前半では、「大学生」として必要なスキルの修得・熟練を目指し、大学における学習、調査の方法など、自主的な学びの手法を解説し実践した。講義の後半では、ビジネスゲームにより企業の利益構造に関して効果的な学習を、経営に関わる事柄を題材とした受講生による調査の実施と報告を行い、学生が主体的に活動する内容とした。

アクティブラーニング、ビジネスゲームなどの取り組みを学生の反応に柔軟に対応させることで、学生の満足度を高めるよう改善を継続した。さらに少人数教育の強みをいかし、受講生のつながり、グループワーク、継続的な読書・学習への取り組みを求めた。

また、グループごとに企業調査を行った。ここでは各グループで調査先企業を選ぶところから議論をし、調査先企業へ調査依頼のアポイントメントをとり、企業訪問を行った後、調査結果を報告している。グループごとに、個性が色濃くあらわれる活動であり、学生の満足度も高い内容になっている。

また、企業見学を二回行った。企業見学は演習Ⅰ・Ⅱと合同で行っており、準備自体は演習Ⅰ・Ⅱの上級生がほとんどを行うものである。企業見学の際の作法や質問の仕方などを、上級生を見ながら学習し経験を積むことができる機会としている。

課外課題として、読書レポートを毎月課した。これにより読書の習慣をつけるとともに、講義内容を実践し、文章を書くことの練習となることを意図した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
外書講読 2年生

②内容・ねらい（自由記述）

経営学の基本的な内容と事例により構成されているテキストの輪読を行う。テキストを定めることで、事前学習を参加条件としており、講義では積極性を求めるため、自主的に発表することを常に求めた。また、テーマごとに復習となる問題を配布した。

英語文献を読むことで英語の勉強となるとともに、経営学に関する基本的な内容の学習となることを目標とした。

<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <p>講義では、受講生が事前にテキストの全訳を行うことを求めた。英文の全訳は輪読形式で行い、受講生が自主的に発表することを求めた。発表者が途切れた時は、発表者をランダムに指名することで、事前学習を行うように誘導した。</p> <p>また、企業見学を二回行った。企業見学は演習Ⅰ・Ⅱと合同で行っており、準備自体は演習Ⅰ・Ⅱの上級生がほとんどを行うものである。企業見学の際の作法や質問の仕方などを、上級生を見ながら学習し経験を積むことができる機会としている。</p> <p>少人数教育の強みをいかし、受講生のつながりができるように場の管理をするとともに、読書習慣の修得と文章を書く練習となるように、毎月の読書レポートを課した。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>①担当科目名（単位数） 開講学校名</p> <p>なし</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述）</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p>
<p>④本学における業務との関連性（自由記述）</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>
<p>内容</p> <p>他ゼミとの合同企業見学など交流</p> <p>正課外における勉強会の開催</p>

#### 4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p>
<p>①論文</p> <p>（タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所について）、掲載雑誌名（号数）、掲載（受理）年月日）</p> <p>木下和久「建築設計における原価企画活動と原価見積—希望社調査を中心に—」経済経営研究論集 2016年3月。</p>
<p>②著書</p> <p>（タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ）、出版年、出版社名）</p> <p>木下和久「日本における原価企画研究」上總康行・澤邊紀生編著『次世代管理会計の礎石』中央経済社 pp.45-83、2015年3月。</p> <p>Orion Breweries Ltd.: success, new product development and contribution to post-war reconstruction and the regional economy in Okinawa、共著、Accounting for Alcohol An Accounting History of Brewing, Distilling and Viniculture, 1st Edition Edited by Martin Quinn, João Oliveira, Routledge, 2018/08</p>
<p>③学会報告等</p> <p>（タイトル、報告学会（大会）名（開催年月日）、共同報告者の有無（共同報告の場合は主たる担当箇所））</p> <p>建築設計における原価企画活動と原価見積、第7回京都大学慶應義塾大学管理会計研究交流会（2016年2月23日）、共同報告者無し、</p>
<p>④その他の公表実績</p> <p>日本会計研究学会 第74回 統一論題報告学会ルポ「管理会計のフロンティア」企業会計、第67巻12号、2015年12月。</p>

<b>(2)学会活動等</b>
学会でのコメンテーター、司会活動（担当報告名、担当学会（大会）名（開催年月日）） 日本原価計算研究学会関西支部会・日本管理会計学会関西・中部支部会合同部会 自由論題報告 司会 2013年10月
学会での役職など（学会名） 学会誌編集委員（日本原価計算研究学会）（2016年度・2017年度・2018年度・2019年度）
学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日）、開催場所） 日本原価計算研究学会関西支部会・日本管理会計学会関西・中部支部会合同部会 2013年10月京 都大学 日本簿記学会関西支部会 2015年6月福井県立大学 日本会計教育学会全国大会 2017年10月 AOSSA 慶應義塾大学京都大学管理会計研究交流会 事務局（毎年1・2回開催）
<b>(3)研究会活動等</b>
① その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名（期間）） 京都管理会計研究会、福岡管理会計ワークショップ、福井会計学研究会 他 開催・参加
②その活動による成果 研究調査、論文作成等
<b>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</b>
<b>(5)特許出願</b>

## 5. 地域・社会貢献

<b>(1)学外団体</b>
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間） げんでんネクサス委員 原子力関連事業に関する検討 2014年4月から 2016年3月 加賀市商工会議所後継者育成研修 講師 2016年
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間）
<b>(2)大学が主体となっている地域貢献活動等</b>
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） 公開講座『会計と実務～企業倒産を回避する』AOSSA・福井県立大学、2015年5・7・12月 公開講座『会計学入門講座 2016』福井県立大学、2016年6・7月、2017年2月 公開講座『会計学入門講座 2017』福井県立大学、2017年6・12月 公開講座『会計学入門講座 2018』福井県立大学、2018年6・12月 公開講座『会計学入門講座 2019』福井県立大学、2019年6・12月

②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 福井県立大学開放講座 武生東高等学校 2013年 福井県立大学開放講座 仁愛女子高等学校 2014年 福井県立大学開放講座 丹生高等学校 2018年 短期ビジネス講座 講師 2018年 短期ビジネス講座 講師 2019年
③その他（名称、活動場所、活動期間） ラジオ番組出演
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間）

## 6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） （職名、期間）
(2)委員会・チーム活動 （名称、期間） インターンシップ運営委員(2015年度・2016年度) オープンキャンパス企画運営委員(2015年度～2017年度) 教学IR委員(2015年度・2016年度) 新入生オリエンテーション委員(2016年度・2017年度・2018年度・2019年度) ハラスメント相談員(2016年度・2017年度・2018年度) 学生支援ワーキンググループ(2016年度) 特別企画講座担当(2017年度) 職場委員(2017年度・2018年度) 経済学部カリキュラム検討ワーキンググループ(2017年度・2018年度・2019年度) 1年生相談担当教員(2018年度) 情報教育作業部会(2018年度・2019年度) 教育研究委員(2019年度)
(3)学内行事への参加 （行事名、参加日時） 入学式、卒業式、保護者懇親会、新入生オリエンテーション、オリエンテーション、ハラスメント人権委員会研修会、学生支援企画推進委員会研修会、発達障害学生支援研修会、大学祭巡回、など
(4)その他、自発的活動など